

第8次大和市総合計画（後期基本計画）成果を計る主な指標の検証

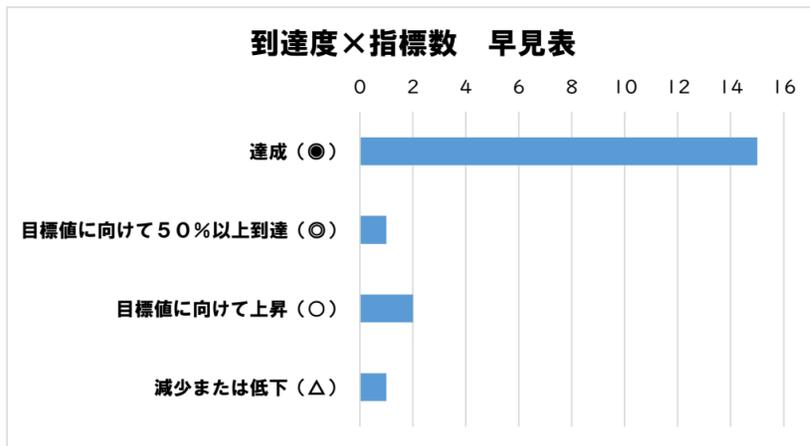
基本目標 3 安全と安心が感じられるまち

▼成果を計る主な指標・最終目標値H30年度の達成状況

目標値に達した指標数	／	指標数
15	／	19

目標値に向けて50%以上到達した指標数	／	指標数
16	／	19

目標値に向けて上昇した指標数	／	指標数
18	／	19



指標の項目	当初値 H24	目標値 H30	実績値 H30	到達度	
				率	到達
40 地域防災訓練を実施している自治会の割合	72.0%	78.0%	80.7%	145.0%	●
41 市と避難行動要支援者名簿を共有している自治会の割合	66.4%	78.0%	100.0%	289.7%	●
42 住宅の耐震化率	88.5%	93.2%	93.2%	100.0%	●
43 地域で広域避難場所が知られていると思う市民の割合	66.8%	70.3%	72.7%	168.6%	●
44 指定避難所等における想定避難者数に応じた非常食料の備蓄率	70.6%	85.3%	85.3%	100.0%	●
45 防災講話の受講団体数	45団体	60団体	42団体	-20.0%	△
46 防災上重要な公共建築物の耐震化率	97.7%	100.0%	99.4%	73.9%	◎
47 雨水整備率	68.2%	69.0%	69.2%	125.0%	●
48 火災発生率(人口1万人あたりの火災発生件数)	2.9件	2.6件	1.5件	473.3%	●
49 救命講習受講者資格取得者数(累計)	21,411人	35,000人	42,890人	158.1%	●
50 救急車の医療機関到着までの所要時間	36.0分	36.0分	34.9分	-1.1分	●
51 以前に比べて、大和市の治安は良くなったと思う市民の割合	46.0%	50.0%	56.7%	267.5%	●
52 年間犯罪発生件数	2,499件	2,100件	1,664件	209.3%	●
53 自主防犯活動団体数	188団体	228団体	192団体	10.0%	○
54 交通人身事故発生件数	1,267件	1,100件	877件	233.5%	●
55 交通安全教室等参加者数(イベントを除く)	20,187人	23,000人	21,099人	32.4%	○
56 消費生活相談の苦情件数のうち完結済みの割合	99.5%	99.5%	99.6%	+0.1ポイント	●
57 家庭用品品質表示法・製品安全4法に係る立ち入り検査による適正表示の割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	●
58 時間帯補正等騒音レベル(Lden)	72.8	通減させるよう取り組みます	60.8	-12ポイント	●

資料 1

～総括～

- ・19の成果を計る主な指標のうち、目標値に達したものは15、目標値に向けて上昇したものは18と、ほぼすべての指標で成果を上げたといえます。
- ・「⁴⁰地域防災訓練を実施している自治会の割合」が目標値を上回り、「⁴³地域で広域避難場所が知られていると思う市民の割合」も上昇していることから、市民の防災意識が高まっていることが考えられる一方で、「⁴⁵防災講話の受講団体数」については想定ほど数字が上昇しなかったことで、唯一当初の値を下回りました。
- ・目標値を達成した指標の中でも、「⁴¹市と避難行動要支援者名簿を共有している自治会の割合」については、実際に名簿を活用して災害時に支援にあたる人の選定などの取り組みを進めています。また、「⁴⁴指定避難所等における想定避難者数に応じた非常食料の備蓄率」は公助に関する指標ですが、災害への備えは自らが行うことが基本であることを踏まえ、自助のさらなる意識啓発などに取り組むことが必要と考えています。
- ・「⁵³自主防犯活動団体数」は、新たに自主防犯活動を行う余裕のある団体が少なく伸び悩んでいます。また、「⁵¹以前に比べて、大和市の治安は良くなったと思う市民の割合」や「⁵²年間犯罪発生件数」は大幅に目標値を上回り、これまでの防犯等に関するハード面、ソフト面の取り組みが市民の体感治安の向上につながっていると捉えています。
- ・この間、様々な機関や団体等と連携しながら交通安全対策にも力を傾けてきた中で、「⁵⁴交通人身事故発生件数」も目標を達成し、また、「⁵⁶消費生活相談の苦情件数のうち完結済みの割合」が上昇していることから、安全安心につながる取り組みの結果が出てきています。あわせて基地対策についても、「⁵⁸時間帯補正等騒音レベル(Lden)」で示す騒音の低減という形で成果を上げました。
- ・指標の達成状況を見ると、自然災害に対する備え、犯罪、交通事故などの日常生活のあらゆる場面で、安全や安心が感じられるまちの実現に向けて、確実に歩みを進められたものと考えています。健康都市やまと総合計画に基づき、今後も引き続き、様々な災害への備えや日々の暮らしの安全を守ることを通じて、市民が安心して毎日を送ることができるよう、努めていきます。

成果を計る主な指標の達成状況の検証(課題となるものを抜粋)

①⁴⁵防災講話の受講団体数

(達成状況に関する市の考え方)

・H27年度以降、年間40以上の団体が防災講話を受講しています。新たに受講を希望する団体を含め、毎年定期的に依頼はありますが、想定したほど受講団体数が伸びませんでした。自助を基本とするいざという時の備えの重要性や市民の防災意識がさらに広がっていくよう、より多くの受講団体に関心を持ってもらうための周知や講話内容の工夫等に努めていきます。

(総合計画審議会のコメント)

・基本目標3を構成する19の成果を計る主な指標のうち、目標値に向けて上昇したものは18、そのうち目標値に達したものが15と指標の達成状況は良い結果を表しています。

・この背景として、近年多発する自然災害への備えをはじめ、防犯や交通安全対策、基地対策など、日常生活の安全、安心につながる地道な取り組みが着実に進んできているものと評価できます。

・「⁴⁵防災講話の受講団体数」は最終年度において目標値を達成していませんが、目標値近くまで増加した年度もあります。さらなる防災意識の向上に向けて、災害時の正しい情報収集や、それをどのように実際の避難行動につなげていくか、などの意識啓発を講話を通じて実施するとともに、市と受講者が互いに防災について考える場となるよう取り組んでください。

・「⁴¹市と避難行動要支援者名簿を共有している自治会の割合」は、実績値が100%となり、全自治会と名簿の共有が完了したことで指標としての目標は達成しています。実際には、名簿を有効活用していかにより支援を行えるか、が重要であることから、災害時の実践的な支援につながるよう努めてください。また、「⁴³地域で広域避難場所が知られていると思う市民の割合」も目標を達成しているものの、さらなる上昇が必要と考えます。これまで、避難所は地震を想定した対応を前提としていることから、2019年に発生した台風で課題となった風水害の際の避難所運営の在り方を検討していただく。また、刻々と変化する状況を速やかに市民に伝え、適切な避難につなげるよう、「ヤマトSOS支援アプリ」や「やまとPSメール」のさらなる普及を進めてください。

・安全と安心が感じられるまちという視点において、市が行ってきた様々な事業は確実に成果を上げていることから、これらを継続して進めていくことはもちろん、指標の目標達成の先にある今後の課題もしっかりと見据えながら、着実に取り組みを進めていってください。

第8次大和市総合計画（後期基本計画）成果を計る主な指標の検証

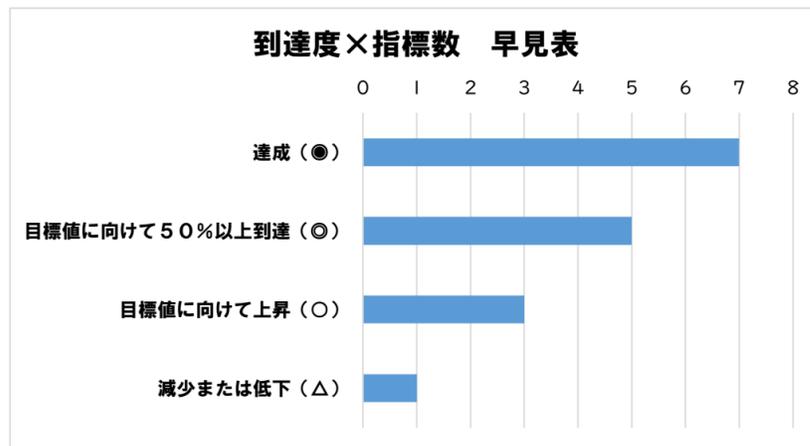
基本目標 4 環境を守り育てるまち

▼成果を計る主な指標・最終目標値H30年度の達成状況

目標値に達した指標数	/	指標数
7	/	16

目標値に向けて50%以上到達した指標数	/	指標数
12	/	16

目標値に向けて上昇した指標数	/	指標数
14	/	16



指標の項目	当初値 H24	目標値 H30	実績値 H30	到達度	
				率	到達
59 環境に配慮している人が多いと思う市民の割合	49.3%	67.0%	50.0%	4.0%	○
60 1990年度と比較したエネルギー供給量等に基づく二酸化炭素排出量の割合	104.3%	79.2%	106.4%	-8.4%	△
61 市民一人1日あたりのごみ排出量	459g	412g	420g	83.0%	◎
62 リサイクル率	21.9%	32.0%	27.8%	58.4%	◎
63 ごみ焼却灰の資源化率	19.8%	55.0%	91.2%	202.8%	●
64 美化推進月間クリーンキャンペーン参加者数	3,468人	5,200人	3,554人	5.0%	○
65 生物化学的酸素要求量(BOD)(境川)	1.3mg/l	3.0mg/l	2.1mg/l	+0.8mg/l	●
66 生物化学的酸素要求量(BOD)(引地川)	1.0mg/l	2.0mg/l	1.1mg/l	+0.1mg/l	●
67 下水道出前授業の実施校数	19校	20校	20校	100.0%	●
68 環境基準項目不適合率	7.0%	4.2%	5.4%	57.1%	◎
69 公害苦情件数	117件	111件	88件	483.3%	●
70 大和市には、緑や公園が多いと思う市民の割合	68.0%	70.5%	71.9%	156.0%	●
71 民有地に設置された生垣延長(累計)	591.9m	720.0m	708.6m	91.1%	◎
72 保全を図っている緑地面積	90.0ha	92.9ha	88.0ha	-69.0%	△
73 農地の利用権設定面積	4.6ha	5.2ha	7.2ha	426.7%	●
74 市民農園区画数	863区画	950区画	931区画	78.2%	◎

～総括～

- ・16の成果を計る主な指標のうち、目標値に達したものは7、それを含めて目標値に向けて上昇したものは14と、ほぼすべての指標で成果を上げたと捉えられます。
- ・⁶⁰1990年度と比較したエネルギー供給量等に基づく二酸化炭素排出量の割合は、これまで市独自の算出法で市内のCO2排出量を把握していたものの、この方法では省エネルギー機器の導入等によるCO2削減効果等を反映できなかったなどの事情により目標値に到達していません。しかしながら、環境省マニュアルに基づき再計算すると実績値は74.4%となり、目標値を上回る結果を得ることができています。
- ・また、⁶¹市民一人1日あたりのごみ排出量が減少し、⁶³ごみ焼却灰の資源化率が目標値を達成していることから、ごみの減量化、資源化が進み、循環型社会への歩みが進んでいることが窺えます。
- ・数値が減少しているものとして、⁷²保全を図っている緑地面積は、都市化が進み、開発等の影響を背景に減少傾向にあります。一方で、大和ゆとりの森の園地の拡大など、公園面積が増えていることや、市民・事業者への緑化啓発に努めてきた中で、⁷⁰大和市には、緑や公園が多いと思う市民の割合が目標を達成しており、この結果を維持できるよう、適切な農地の活用などを含め、今後まちの貴重な緑を保全していくことが重要であると捉えています。
- ・総じて、「環境を守り育てるまち」という大きな目標のもと、水や空気をきれいにし、ごみの減量化、緑地の保全などに取り組んできた成果は、確実に表れていると言えます。健康都市やまと総合計画では、都市の持続可能性を見据え、「環境にも人にも優しい快適な都市空間が整うまち」を基本目標としており、街づくり計画・都市施設部門と連携しながら調和のとれたまちづくりを進めていきます。

成果を計る主な指標の達成状況の検証（課題となるものを抜粋）

①⁷²保全を図っている緑地面積

（達成状況に関する市の考え方）

・緑化啓発活動や保全緑地契約継続及び新規の契約により、緑地保全に努めてきましたが、目標値には到達しませんでした。原因については、市街化区域における開発等の影響により、保存樹林の解除が増加し緑地の減少が進んだことが挙げられます。保全緑地用地や保存樹林等の解約や解除を検討している地権者に対しては、他の制度をPRするなど緑地の減少抑止に努めていくとともに、多くの市民に豊かな自然を感じてもらえるような取り組みにも目を向けていくなど、様々な施策を展開していきます。

（総合計画審議会のコメント）

・基本目標4を構成する16の成果を計る主な指標のうち、目標値に向けて50%以上到達したものが12、そのうち目標値を達成したものは7と、指標の達成状況は概ね良い結果を表しています。一方で、⁵⁹環境に配慮している人が多いと思う市民の割合や⁶⁴美化推進月間クリーンキャンペーン参加者数の実績値は、目標に至っていないため、今後も継続的に課題意識を持ちながら、取り組みを進める必要があります。

・⁷²保全を図っている緑地面積の実績値は、当初の値を下回り、目標値から乖離した結果となっています。緑地の保全を環境分野だけで捉えるのではなく、防災や都市計画の分野と一体的に考えていくことが重要です。具体的には、市民等に理解を促すため、緑地に触れてもらう参加型の機会をつくることや、防災の観点から倒木の危険性が高い樹木を行政が伐採することで樹林を長期的に残してもらうなどの手法を検討していくことが重要です。また、こうした視点に加えて、建物の屋上緑化やまちの中に新たな緑を生み出していくなど、新たな発想に目を向けていくことも必要と考えます。

・⁶⁰1990年度と比較したエネルギー供給量等に基づく二酸化炭素排出量の割合のように、環境分野に関わる指標の中には、基準や考え方が時間の経過とともに変わっていくものもあり、短期間で十分な成果を計ることが困難な性質のものもあります。そのような施策を評価するにあたっては、時期を見定めながら、適宜、目標の見直しなどを行うことが肝要です。

・健康都市やまと総合計画では、環境、街づくり、都市施設の分野を一体とした「環境にも人にも優しい快適な都市空間が整うまち」という基本目標を構成していることから、横断的な連携のもと、環境にやさしいまちを実現に近づけるため、充実した都市基盤整備を推進していくことが期待されます。この間、市が行ってきた環境を守り育てるための様々な取り組みが、今後さらに、まちの利便性や快適性の面と融合するよう、着実に取り組みを進めていってください。

第8次大和市総合計画（後期基本計画）成果を計る主な指標の検証

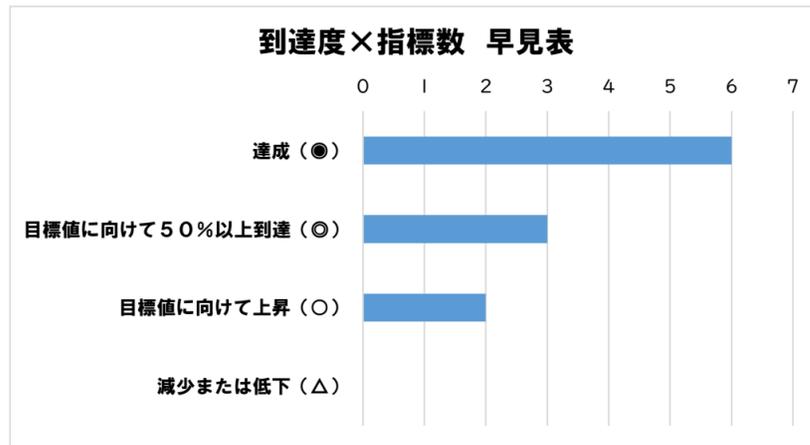
基本目標 5 快適な都市空間が整うまち

▼成果を計る主な指標・最終目標値H30年度の達成状況

目標値に達した 指標数	/	指標数
6	/	11

目標値に向けて 50%以上到達した 指標数	/	指標数
9	/	11

目標値に向けて 上昇した指標数	/	指標数
11	/	11



指標の項目	当初値 H24	目標値 H30	実績値 H30	到達度	
				率	到達
75 土地区画整理事業などによる市街地整備の割合	58.1%	60.4%	60.1%	87.0%	◎
76 プロムナードにおける1日あたりの通行者数	24,195人	26,350人	31,992人	361.8%	●
77 渋谷(南部地区)土地区画整理事業の進捗率	87.6%	—	100.0%	100.0%	●
78 大和市は、良好なまち並みが形成されていると思う市民の割合	44.7%	52.0%	53.1%	115.1%	●
79 地区計画、建築協定、地区街づくり協定などルール化された面積(累計)	121.8ha	128.3ha	128.3ha	100.0%	●
80 都市計画道路の整備率	63.3%	64.7%	64.1%	57.1%	◎
81 市民1人あたりの都市公園面積	2.71㎡	4.00㎡	3.28㎡	44.2%	○
82 大和市は、公共交通機関を手軽に利用できると思う市民の割合	75.8%	82.0%	76.5%	11.3%	○
83 コミュニティバスの利用者数	332,426人	721,500人	717,851人	99.1%	◎
84 自転車走行空間の総延長	14.0km	35.0km	72.6km	278.9%	●
85 適正駐輪率	98.7%	99.0%	99.7%	333.3%	●

～総括～

- ・11の成果を計る主な指標のうち、目標値に達したものは6、そして全ての指標が当初の値から上昇を示し、総じて良好な指標の達成状況であったと捉えています。
- ・⁷⁵土地区画整理事業などによる市街地整備の割合や⁷⁷渋谷(南部地区)土地区画整理事業の進捗率など、区画整理のハード面の計画的な実施や、市内の様々な都市空間整備が進んでおり、その結果として⁷⁸大和市は、良好な街並みが形成されていると思う市民の割合も目標を達成しました。このことから「快適な都市空間」にとどまらず、防災性の向上も含め、市が目指すまちの姿に前進しているものと捉えています。
- ・⁸¹市民1人あたりの都市公園面積は、これまでも大和ゆりの森の拡大などに努めてきており数値は上昇しています。今年度も雨水調整池などの防災機能と公園機能を兼ね備えたやまと防災パークを新たに整備するなど、取り組みの充実を図っており、限りある市域の中でも、引き続き様々な機会を捉えて、公園の確保に努めていきます。
- ・また、⁸³コミュニティバスの利用者数は、適宜、ルートの見直しやバスマップの作成などを行ってきたことにより、市民の移動手段として定着し、これまで増加が続いているものと考えています。
- ・まちづくりやインフラ整備、交通施策の充実などは、市民生活の根幹にかかわる取り組みであり、その推進に向けては、社会状況の変化などを見据え、今後のあるべきまちの姿を的確にとらえながら進めていく必要があります。健康都市やまと総合計画では、引き続き、充実した都市基盤を備え、市民の生活を快適なものとするため、基本目標を「環境にも人にも優しい快適な都市空間が整うまち」としており、まちの利便性と快適性の維持、充実を図ることで持続可能な都市となるよう努めていきます。

(総合計画審議会のコメント)

- ・基本目標5を構成する11の成果を計る主な指標のうち、目標値を達成したものが6、そして全ての指標が当初の値から上昇しました。
- ・基本目標5における主な取り組みの内容が、まちづくりやインフラなどの計画に基づく整備であることを踏まえても、全ての指標が当初の値から上昇したことは評価できます。
- ・一方で、これからのまちづくりを考える上では、近年勢いを増す気象災害への対応などの防災の観点や、環境分野における緑地の減少を意識した総合的かつ戦略的発想が必要と考えます。
- ・⁷⁸大和市は、良好なまち並みが形成されていると思う市民の割合は目標を達成しているものの、全体の約半数という実態をふまえると、生活道路の安全性や利便性の向上に向けてさらなる基盤整備を進めることや、地区計画によって建物の敷地面積を一定規模以上に制限するなど、防災や日照の面に配慮した、よりよい住環境づくりを進めていく必要があると考えます。また、大規模災害発生時に脆弱な面を見せる密集市街地には、まちの安全性を高めるため、防災機能を備えた公園を新たに整備していくことも有効と考えます。こうした一定の基盤整備を進めるためには、土地の取得も必要になることから、2022年に期限を迎える多くの生産緑地の動向を見据え、行政として必要な用地の確保について、検討を進めていくことも重要です。
- ・人口減少社会の進展に伴い、大和市でも今後、空家の増加がまちの課題となっていくことが考えられます。転居や相続などにより空家になる可能性のある住戸が適切に市場の流通につながるよう、行政として必要なインフラを整えるなど、空家を生まない取り組みにも目を向けていってください。
- ・健康都市やまと総合計画では、街づくり、都市施設、環境の分野を一体とした「環境にも人にも優しい快適な都市空間が整うまち」という基本目標を構成していることから、横断的な連携のもと、充実した都市基盤の整備を進めながら、環境にもやさしいまちを実現していくことが期待されます。ストックが増えることで目標を上回った指標の達成状況に満足することなく、今後も、既存施設の適切なメンテナンスや、より良いものに再整備するといった視点も大切にしながら、まちの快適性や利便性を高める取り組みを進めていってください。